

協会ニュース



2022

支援の困難な方に関わるために…

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の確立のために課題になるのは、やはり「支援の困難な方に対して地域はどう関わるのか」だと思います。その中でも特に「触法行為に至ってしまう方」への支援は大きな課題になります。

我々が司法に望んでいることは、彼らが刑罰を受けることによって矯正され、対象行為をしないようになり社会復帰できるようになることです。しかし、例えば、窃盗やのぞきなどの触法行為は、状況によっては刑罰の対象にならない場合もありますし、残念ながら、刑罰を受けてもまた繰り返してしまうことも多いようです。それでも我々は、司法の矯正機能にそれを望んでいます。

「触法行為」の場合に限りませんが、我々ができることを考えるときにまず行うのは、その方の「生活歴」を理解することです。そこから「問題解決パターン」、つまり、今まで困難に直面した時にどうやってそこを乗り越えてきたか、乗り越えたことでどんな力をつけてきたか、を理解しようとしています。乗り越え方がその人を形成していくのです。その人を理解することで、その人が求めているものを一緒に探していきます。

探していくものの1つは、「もっと効果的な乗り越え方」です。不適切な方法かもしれないけれど既に身につけた「力」「方法」を、今から「新しい力」「乗り越え方」に「上書き」しようとしたら、それは「既に身につけた力、方法以上に自分にとって有益なもの」でなければ、身につかないのではないのでしょうか。

我々はその1つが「他者からの信頼」や「受け入れられている安心感」、そしてそこからの「自己肯定感」だと思っています。抽象的ですぐに有益性を感じられるものではないかもしれませんが、獲得するための方法も具体的ではなく、獲得しにくいものかもしれません。

しかし、成果が見えないからこそ、すぐに拒否されず、日々少しずつじっくりと提供し続けられることでもあります。

でも、彼らがそれを求めているのか、彼らにとって「上書き」のために有効なのか、もっと、直接的に欲求を満たすもの、「快」が得られることを提供することが効果的だろうか、いや「不快」を取り除くことの方が良いだろうか…確信は持ていません。

「焦らずにじっくり」と臨まなければならないのですが、我々が感じている「不安」や「迷い」も、日々彼らに接するたびに伝わってしまいます。「自信」「信念」も持ちながら接し、信頼関係を構築することも必要です。

そんなふうに「答え」のない中で「答え」を模索している毎日です。

(事務局)





新年会にて

2022

1.6



ことし ほうふ はなし けつい あら ご
今年の抱負をみんなで話し、それぞれに決意を新たにしました。その後は、

わがし た うた き たの じかん す
和菓子を食べながら、メンバーさんの歌を聞きながら楽しい時間を過ごしました。

令和4年の抱負

一年の計は元旦にあり

ジョイ2

- 去年は体が不調だったので今年は体調に気を付けて過ごしたい。K氏
- 楽しく過ごしたい。77歳になったら長寿園に行く。K氏
- いつか寮を出て、仕事をしたい。S氏
- 青雲荘に行っても将棋をしたい。S氏
- 感謝の心を持って過ごしたい。H氏
- 仲良く、沢山楽しい会話をしたい。Y氏
- 人に優しく自分に厳しく過ごしたい。M氏
- 健康で日々頑張りたい。W氏
- 楽しく笑える日々を過ごしたい。鮮雲荘に行つて友達を沢山つくりたい。K氏

ジョイ3

- 時々入院したくなることもあるけど、今年も有意義に頑張っていきたい。S氏
- 基本は部屋だけドケアプラン、訪問看護、相談しているが、いずれは働くのが目標 S氏
- 健康寿命を延ばす。奥さんに迷惑をかけない。O氏
- 自転車で転ばない。ジョイに遅れない。Y氏
- 武器は買わない。欲しいけどコントロールする。待つことも訓練。T氏
- お金を貯める（一千万）。信頼関係を築く。Y氏
- イライラしない。みんなと仲良く。仕事を頑張る。M氏
- 全力でジョイに来る。寝坊しない。 K氏
- 体調を崩さない。健康管理。O氏
- 痩せる。体重70kg台に戻す。ごはんを少なくする。O氏
- 今年一年、健康でいられるように頑張る。H氏

